

研究・調査報告書

| | |
|---|----------------|
| 報告書番号 | 担当 |
| 37 | 滋賀医科大学福祉保健医学講座 |
| 題名 (原題/訳) | |
| Health practices and mortality in Japan: combined effects of smoking, drinking, walking and body mass index in the Miyagi Cohort Study. 日本人の健康行動と死亡率：喫煙、飲酒、運動、肥満の相乗効果　－宮城スタディー | |
| 執筆者 | |
| Tsubono Y, Koizumi Y, Nakaya N, Fujita K, Takahashi H, Hozawa A, Suzuki Y, Kuriyama S, Tsuji I, Fukao A, Hisamichi S. | |
| 掲載誌 (番号又は発行年月日) | |
| J Epidemiol. 2004 Feb;14 Suppl 1:S39-45. | |
| キーワード | |
| 飲酒、喫煙、死亡率、生活習慣、コホート研究/追跡調査 | |
| 要 旨 | |
| <p>複数の健康行動の組み合わせと死亡率との関連は、これまで検討されていなかった。</p> <p>1990年の宮城県在住 40-64歳の男女 28333人による自記式質問紙で、生活習慣に関する危険因子（喫煙、一日 22.8g 以上の飲酒、一日 1 時間未満しか歩かないこと、BMI が 18.5 未満または 30.0 以上）の個数を指標とした。この個数ごとの死亡の相対危険度が比例ハザードモデルにより、年齢・教育歴・婚姻状況・既往歴・食習慣を補正して算出された。11 年の追跡期間に、1200 名が死亡した。危険因子の個数が多くなるほど、死亡の相対危険度が上昇していた。危険因子 0 個の男性と比較した場合の 1、2、3、4 個の危険因子をもつ男性の相対危険度は、それぞれ、1.20、1.66、1.94、3.96 であった (p for trend <0.001) 女性でも同様に、1.31、2.14、3.98、5.56 (p trend <0.001) と危険因子の個数が増えれば増えるほど死亡の相対危険度が増すという、線形の関連を認めた。危険因子の個数が 1 個増えることによる死亡の危険度は、男性で 2.8 歳、女性では 4.8 歳の加齢による死亡の危険度に相当した。</p> <p>日本の農村部における前向きコホート研究の結果、壮年層の男女において、生活習慣に関する危険因子が多ければ多いほど総死亡率が上昇することが示された。</p> | |